

りゅう えん きょう
龍淵橋の
は め いし
羽目石①

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ
押し出土品を、月替わりで紹介。

今月は、首里城北殿跡から出土した
龍淵橋の羽目石、第1弾を紹介します。

■ 出土地：首里城北殿跡

りゅうえんきょう えんかんち りゅうたん すいろ か
龍淵橋は、円鑑池と龍潭の間の水路に架けられた橋で 1502
年に造られました。こうらん
勾欄に設置されたこの羽目石は、全体の
約三分の二が残っており、表面にりゅう
龍、裏面にしし
獅子二頭の彫刻
ほどこ
が施されています。

何故この羽目石が、龍淵橋から離れた首里城のほくでん
北殿跡から
出土したのでしょうか。北殿は、1936年頃から1945年の沖
縄戦まで沖縄きょうど はくぶつ かん
郷土博物館として存在していました。この羽目
石が橋から外された時期は不明ですが、しゅうぞうひん
収蔵品の一つとして
郷土博物館に保管されていたものであり、沖縄戦でしょうしつ
焼失した
後、がれき
瓦礫と共に埋まっていたと考えられます。



現在の龍淵橋

勾欄を支えていた持ち送り石が
残っています。

